

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑥

加藤嘉明が松山から会津へ国替えになった1627(寛永4)年、入れ替わり会津から松山へ入部したのが、戦国武将蒲生氏郷の孫、蒲生忠知である。会津藩60万石藩主の兄忠郷が同年に嗣子なく没したため、忠知が跡を継ぎ、24万石に減封のうえで松山へ国替えとなった。しかし、忠知もまた34(同11)年に治世7年にして嗣子なく没し、蒲生家は断絶する。そのため、忠知に関する資料は少ない。本資料は、その中でも極めてまれな本人自筆の書状である。

今から帰ることを家臣の町田太郎右衛門から他の家

臣に伝えさせるとともに、風呂を急ぎたかせることも指示している。短文で、墨消して訂正したままの部分もあり、親しい間柄での取り急ぎの連絡だった様子うかがわせる。忠知や町田らがどこに居たのか、また口頭伝達でも事足りそうな内容をなげわざわぎ書面にしたのかなど、いろいろ疑問も湧いてくるが、残念ながら詳細はよく分からない。

とはいえ、政治的な内容ではなく、簡潔な伝達を自筆で行った私信であり、風呂の指示も添えるなど、日常の生活感が漂う珍しい資料である。

家臣へ生活感漂う私信

忠知の発給文書としては他に右筆と呼ばれる書記役が書いた知行宛行状を所蔵

しているが、自筆となかなか目にするのはない。そのため、比較検討が難しく、分らないことも多い。今後、類例が発見、蓄積され、謎多き忠知像の解明につながっていくことを期待したい。

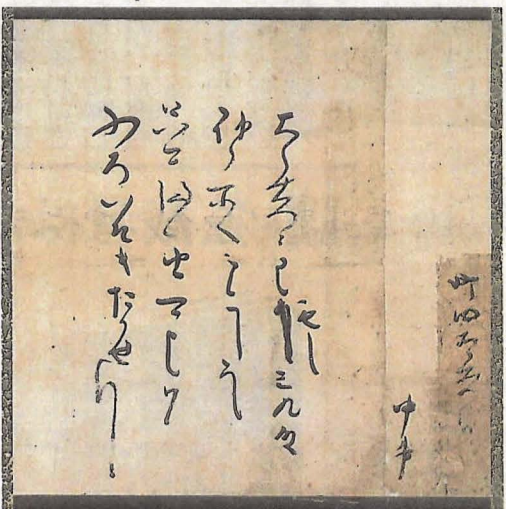
(専門学芸員・山内治明)

〈月2回掲載します〉

× ×

書状は県歴史文化博物館(西予市)のテーマ展「松山藩の歴代藩主」で26日まで展示中。

蒲生忠知の自筆書状



蒲生忠知の自筆書状。今から帰る旨や風呂の指示などが記されている

―江戸時代初期、県歴史文化博物館蔵